
心を洗う

十洲海良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心を洗う

【Nコード】

N2637R

【作者名】

十洲海良

【あらすじ】

彼女と彼女と洗濯機のはなし。

サイト『コトバノトリコ』からの転載です。

<http://id53.fm-p.jp/234/mstry/>

洗濯を愛している。それはもう直しようがない、と彼女は云った。毎日でもしたい、それがたとえ今日着た少しの下着とバスタオル1枚しかなくても。

潔癖症ってやつ？と訊くと彼女は首を横に振る。そういうんじゃないの、だって、部屋なんかは平均以下に雑然としてるわけだし。潔癖症だったら床に積み重なるほりとかそういうものも気になつて仕方ないはずよね、とも。

たしかに、彼女のアパートは整然と物が並んでいるというのではなかった気がする。読み止しの本はテーブルの脇に乱雑に積んであるし、灰皿だっていつもきれいとはいえない。なにかの締め切りが近ければ吸殻がぎゅうぎゅうに押し込まれて、細かい灰が周辺に散乱している。たしかに、きれい好きというわけではない。片付けられない女というものからも程遠いけれど。

でも洗濯は好きなの。ドアを隔てた向こうで、洗濯機がわかるかわからないか微妙な音を立てて回っていると幸せ、時折水がチャプチャプ跳ねていて、あの子が動いている間は幸せになれる。

清潔で正しくてあかるくて、そして寂しいものが好き。
彼女はとても寂しそうに笑った。

私はそんな彼女を笑えない。私は彼女みたいな強度も持たないし、哲学もない。何をしてもいいか分からないから毎日の寝る前の時間を持て余し、こつやつて彼女に電話を掛けたりするのが関の山だ。

周囲に何があるかと誰が居ようと紛らすことが到底出来ない孤独というものは存在する。そしてそれは思いのほか温かくて、やさしいのかもしれない。彼女はそれを知っている。身をもって、知っている。私が彼女のことをとても好きなのはそういうわけか、と私は思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2637r/>

心を洗う

2011年4月28日12時05分発行